

# 今市地区における「まちの縁側」事業

地域名：日光市今市  
松田大樹（日光市社会福祉協議会）  
手塚正文（日光市総合政策課）

11班 コミュニティデザイン学科 大類遥 関野浩人  
建築都市デザイン学科 岡元輝 小山葉奈  
社会基盤デザイン学科 山口大智

## I. 背景

日光市今市地区では生産年齢人口の減少と高齢化率の上昇が発生しており、それに伴って高齢単身世帯が著しく増加している。日光市によれば、平成17年から平成27年の10年間で高齢単身世帯が約1,400世帯増加しており、人々がコミュニケーションをとる機会は減少している。自然と人が集まり、会話が弾む空間は失われつつあり、昔のような地域のつながりは希薄化しているといえる。

## II. 目的

今市地区の地域住民の実際の声やニーズを知ることによって、どのような形の人のつながりを求めているかを明らかにする。また、「まちの縁側」事業を展開する事業者側の想いに触れることで、人とのつながりの場として機能する「まちの縁側」が住民から愛され、利用してもらうための提案をする。

## III. 「まちの縁側」

ヒト・トキ・モノがゆるやかにつながり合う地域の居場所であり昔の住宅にあった「縁側」は、現代では、お茶会・井戸端会議・公園のベンチ・スーパーの休憩所など形を変えて存在している。

## IV. 方法

### ①長野県長野市における「まちの縁側」の先行事例の情報収集

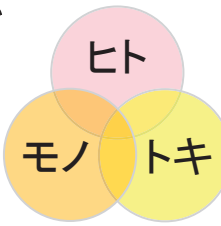
「まちの縁側育みプロジェクトながの」の資料をもとに長野市での取り組みに関する情報を収集した。

### ②Google mapを用いた「まちの縁側」の分布を可視化

のデータをもとにGoogle mapを用いて今市地区における「まちの縁側」を地図上に示した。

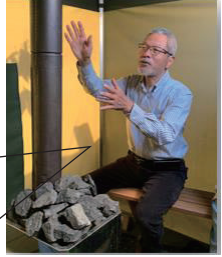
### ③現地調査

日光市社会福祉協議会の松田大樹様（「まちの縁側」事業担当）ならびに日光市水無にお住まいの神山敏様（住民の方）にインタビューを実施すると共にベンチを設置するスペースの寸法や傾斜の確認などを実施した。

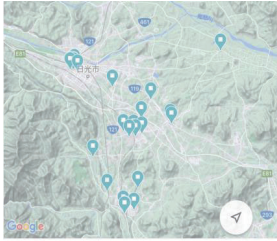


**神山敏さんプロフィール**

- ・栃木県日光市出身
- ・高校卒業後、東京の貿易関連の会社に就職したが、退職
- ・その後サウナ関連の会社に就職
- ・定年後、日光市に戻り、アウトドアサウナやキートスクラブの活動を開始



## V. 分析結果



写真①「まちの縁側」の分布



写真①「まちの縁側」登録カ所の例

・「まちの縁側」に登録されている箇所をGoogle mapを用いて地図上で可視化した。（図1）市街地に集中しているという当初の想定よりも広い地域に分布しており、また、一目見ただけでは「まちの縁側」登録カ所であると判別するのは困難であり（写真①）、地域住民に認知してもらうためには目印が必要であると考えられる。

・日光市水無地区にお住まいの神山様にインタビュー調査を実施した。一住民である神山様が感じている課題は以下の3つである。

- 子どもが外で遊んでいる姿が見られない
- 公園のような気軽に休める場所が少ない
- 今市に活気がない

また、神山様のニーズは以下の3つである

- もっと交流にぬくもりを欲しい
- 地域住民同士のつながりを強めたい
- 民家の前にコミュニティスペースを設けたい

今回は、事業者の方と住民の方の双方のニーズにお応えすべく、「まちの縁側」事業における初めての試みとして「民家を活用した縁側づくり」をテーマにベンチづくりを企画した。

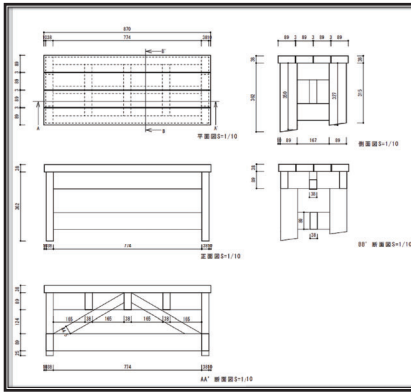
## VI. 提案

### (1)ベンチを軸としたコミュニティスペース形成案

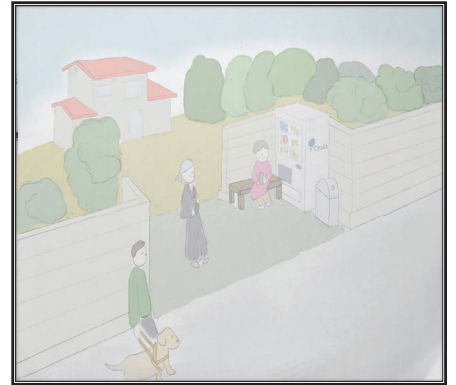
「自宅前にベンチを設置したい」という神山様のご要望から、既に予定されていた自動販売機の設置に合わせてベンチを設置し、通行人の休憩スペースを設けることにした。現在は、自動販売機のみが設置されており、ベンチは設置されていない。今回はベンチの作製という段階には進むことは出来なかったが、ベンチの設計図（図②）および完成時のイメージ図（図③）を掲載する。

図②は今回設置するベンチの案を示しているが、設置場所に傾斜があるため、脚の長さを調節したり、強度を高めるために斜めの支えを設けたりする。また、塗装を施すことで雨風による風化を防ぐ工夫も必要である。

図③では、完成されたコミュニティスペースのイラスト図である。自動販売機で飲料を購入し、休憩をしている高齢者や盲導犬を連れて散歩している近隣住民の方をイメージしている。道路に面しており、開けた空間であること、自動販売機が設置されていることから立ち入りやすい雰囲気をつくっており、更には看板や標識を設置することも重ねて実施することで「あたたかみ」のある空間形成の工夫をしている。



図②ベンチの設計図



図③完成時のイメージ図

### (2)ポスター・ステッカー・パンフレットを作成

地域住民に「まちの縁側」の存在を認知していただくための提案である。ステッカーは製作予定であったベンチをはじめ、各地の「まちの縁側」に貼る。その際、ステッカーの劣化を防ぐために、ストーンペーパーといった耐水性の高い紙を使用する。また、ポスターやパンフレットは、地域の商業施設、観光地に掲載することで地域の人に「まちの縁側」を知ってもらうきっかけを創出することができる。



## VII. 展望

感染症拡大によって、2021年1月に予定していたフィールドワークを断念せざるを得ず、目標としていたベンチ製作は叶わなかったものの、後輩たちや事業者の方に提案を引き継げるよう、本授業が終了しても協議を続けていくつもりである。

ご指導・ご協力いただいた日光市社会福祉協議会の松田大樹様、日光市総合政策課の手塚正文様、サウナカフェキートスの神山敏様、担当教授の杉山央先生、地域デザインセンターの皆様へ深謝します。